練馬区子ども読書活動推進会議（第11期第五回）要録

日時：令和５年２月８日（水）　午後２時から午後４時まで
場所：練馬区職員研修所

●参加者
○委員（敬称略）
　林、木村、工藤、橋爪、池田、慶野、乾、及川、河合
○傍聴人　０名
○事務局
　山﨑光が丘図書館長、松田子供事業統括係長、同係 渡邉、吉住、大塚
　教育指導課 菅原サポート人材推進係長、同係 佐々木、小林指導主事

●議事等
１　開会

２　議題
(1) 第四次練馬区子ども読書活動推進計画　令和３年度実績について
　（高校年代の読書活動の推進、支援を必要とする子どもの読書活動の推進、読書活動推進の基盤づくり関係）

(2) 次期練馬区子ども読書活動推進計画における
　①高校年代の読書活動の推進について
　②支援を必要とする子どもの読書活動の推進について
　③読書活動推進の基盤づくりについて

３　閉会
　　次回開催日：令和5年7月頃

【配付資料】
資料1　第四次練馬区子ども読書活動推進計画」指標
資料2　令和3年度「第四次練馬区子ども読書活動推進計画」取組実施状況
参考資料１（本文）令和4年度子どもの読書活動の推進に関する有識者会議論点まとめ
参考資料2（概要）令和4年度子どもの読書活動の推進に関する有識者会議論点まとめ
参考資料3（参考資料）令和4年度子どもの読書活動の推進に関する有識者会議論点まとめ

●会議要録

○事務局

定刻となりましたので、第11期第五回練馬区子ども読書活動推進会議を開催させていただきます。

それでは座長、会議の進行をお願いいたします。

○座長

本日はご多忙の中、お集まりいただきありがとうございます。

ただいまより、第 11 期第五回練馬区子ども読書活動推進会議を開催いたします。

本日は終了を午後 4 時と予定しておりますので、皆さまのご協力をお願いいたします。

○座長

続いて、次第２議題 (1) 第四次練馬区子ども読書活動推進計画　令和３年度実績についてです。

まず、事務局より説明をお願いします。

○事務局

今回は、昨年度の振り返りを議題とさせていただきます。資料を使いながらご説明をいたします。

まずは議題（1）の第四次練馬区子ども読書活動推進計画　令和３年度実績についてです。お手元の資料 1, 2 は令和 3 年度の「第四次練馬区子ども読書活動推進計画」指標と「第四次練馬区子ども読書活動推進計画」取組実施状況です。本日は主に、議題にもあります「高校年代の読書活動の推進、支援を必要とする子どもの読書活動の推進、読書活動の基盤づくり」について、ご説明いたします。

まず「令和 3 年度「第四次練馬区子ども読書活動推進計画」取組実施状況」について、資料 1 をご覧ください。

（事務局説明）

○座長

事務局から説明がありましたが、議題（１）「第四次練馬区子ども読書活動推進計画　令和３年度実績について」、皆様のご質問等があればお聞かせいただければと思います。

ご質問などございましたら、ご発言をお願いします。

○委員

「高校年代への情報発信」における「高校生の奉仕活動」とは具体的にどのようなものですか。

○事務局

返却本を書架に戻すなどの配架作業や、推薦本のポップの作成などです。

○委員
　指標の11の「読書率」とは何のパーセンテージですか。

○事務局
　１か月に１冊以上の本を読んでいるかの統計です。ただし都立高校における調査のため、必ずしも練馬区民のみのデータではありません。読んでいない人については「不読率」に計上されます。推進計画の42ページに定義が記載されています。

○委員
　「高校年代への貸し出し冊数」とありますが、図書館が高校生に貸し出したということを把握できるのですか。

○事務局
　利用カードの登録年齢から割り出しています。そのため必ずしも「高校生」とは限りません。

○校長
　指標の12については、令和６年度目標が令和３年度実績よりも低く設定されていますが、これはどういうことですか。

○事務局
　目標値はあくまで計画作成時のものです。令和３年度はその目標値を超えたということであり、目標値のほうを低くしたのではありません。

○委員
　「障害がある子どもへの支援」とは、どういった障害を指すのですか。

○事務局
　読書に対して何らかの障害があり、支援を必要とする方全般です。

○委員
　つまり現状の施策の中で対象とされていない支援が必要な方がいるとしたら、何らかしらの形でカバーする必要があるという認識でよろしいでしょうか。

○事務局
　そのとおりです。

○委員
　音訳について。音訳ボランティアに参加していますが、回ってくる本は大人向けのものばかりで、

子ども向けのものがないように感じます。複数の音訳ボランティア団体がありますが、練馬区の公共図書館として、子どもたちのための音訳をお願いしたことはあるのでしょうか。

〇事務局
　統計的な資料がないため、はっきりと有無を申し上げられませんが、音訳サービスを利用されるのは大人の方がほとんどです。子どもの方は、学校等でそういったサービスを受けているのか、公立図書館を使うことは少ないです。需要を掘り起こす必要はあると思いますが、聞く限り子ども向けに音訳サービスをしたという話はありません。

〇委員
　音訳ボランティアの立場としては、子どもたちへの音訳をやりたいという方もいることを、この場にて山﨑館長にもお伝えします。

〇座長
　指標の 14「区立図書館におけるボランティア」について、令和元年→2 年→3 年とどんどん減少傾向にありますが、これは新型コロナの影響であり、ボランティアそのものが減少していると捉えなくてもよいのでしょうか。活動人数についても「活動した延べ人数」であり「ボランティアの数」ではないということですか。

〇事務局
　新型コロナの影響で、そもそも「おはなし会」などが中止になっています。そのためボランティアの数が減少したのではなく、ボランティア活動の場が減っているということです。活動人数についてもお見込みのとおりです。

〇座長
　続きまして、議題（２）①「次期練馬区子ども読書活動推進計画における高校年代の読書活動の推進」についてです。各委員の御意見をうかがう前に「高校年代の読書活動の推進」について事務局より説明をお願いします。

（事務局説明）

〇座長
　ありがとうございました。事前に周知のあったとおり、①高校年代の読書活動の推進について、委員の皆様よりご意見を頂戴したいと思います。恐れ入りますが、各委員持ち時間 3 分程度でお願いします。

〇委員
　文庫連のメンバーに話を振ったところ、非常に多くに意見がありました。まず「高校生を大人と考える」ということ「この年齢になっていたら、親が本を読めといっても聞かない」という意見が

多かったです。逆に SNS 上の影響力のある発信者が言うことであれば、無条件に聞くという意見もありました。

練馬区立図書館発行の『コンパス』については、「選書の内容が重い」「本を読み慣れた人たちが世界状況等に沿って選んでいるので、ハードルが高い」といった意見がありました。他の意見では「アニメや映画の原作本は、その旨を紹介したうえであれば、エンタメ好きの青少年が手を伸ばすのではないか」などもありました。みんながそうだと思ったことは「本が高い」とうことで、お小遣いで買う、もしくは親が本を買い与えるといったことが中々難しいという意見がありました。

○委員

高校生は読む人と読まない人の差が大きい。図書館の中で様々な本を紹介して、興味を持ってもらう必要があると思います。飯能高校の事例がありますが、高校生が興味を持てる「今までと違う図書館」が必要と感じます。いろいろな情報をどんどん発信することが大事です。

○校長

小中に比べて高校は読書指導の時間が非常に少ない。学習指導要領では、読書活動の推進は高校にも求められているので、啓発は必要です。魅力のある公立図書館には高校生も来る。荒川区の「ゆいの森あらかわ」には多くの高校生が学習に来ており、休憩時には本を読んでいます。高校生にどんな本が人気なのかを分析し、そのコーナーを置けば高校生は通うと考えます。

○委員

自分の子どもも高校生の頃は毎日本を読むといったことはありませんでした。小学校高学年の時に「ハリー・ポッター」シリーズが出たので、それだけは兄弟で奪い合って読んでいました。その他漫画も読んでいましたが、それ以外の本となると読んでいませんでした。やはり興味のある本でないと、手を出さないのではないかと感じます。

○委員

話題の本が図書館にあるということが分かれば、先程あった「本が高くて買えない」といった場合など、図書館に来るのではないかと思います。しかし、今の高校生は忙しいのではないかとも思います。自分の担当する特別支援学校の生徒達も、数年前は本を読んでいましたが、今はタブレットで動画を見ていることが多くなりました。健常な高校生であれば見るだけでなく発信する側もやってみたいと感じる子もいるでしょうから、それに勝るだけの話題の本が無いと、なかなか図書館には来ないのではないでしょうか。

○委員

まず一つは、高校生といっても一枚岩ではないということ。仕事で社会人学習の推進をやっていますが、構造が全く一緒であると感じます。学ぶことが習慣づいている方が 2 割、学ぶことが嫌いという方が 2 割、間の 6 割が業務であれば学ぶが自らはしないといった構造です。高校生についても、日常的に本を読む子、先程の「ハリー・ポッター」のように話題作があれば読む子、そもそも本が嫌いな子と分けられ、それぞれアプローチの仕方が全く違います。読んでいる子たちからす

れば、千円の本でも少し背伸びすれば買えますが、読まない子からすれば千円でも百円でも買わないものは買いません。読んでいる子にとって、難しい本を置いている図書館はある種のスターになれる場所であるし、読まない子に対しては、図書館が有益な場所であるということを伝える必要があります。まずはターゲットを分けた施策が必要です。今はどちらかというと読んでいる子に対しての施策が強いので、不読率を下げるためにも読まない子に対する施策が必要になるかと思います。

二つ目は、図書館は役に立つということを伝えること。例えば避妊やDVなど、日常生活の人間関係に役に立つ話が本の中には書かれています。読まない子の周りには読まない子しかいないので、そういった情報に触れる機会がありません。何らかしらの「役に立つ」というメッセージを伝えることが大事です。

三つ目は親についてですが、読まない子の親は読まない親であるということです。読まない家庭の中で出てくる読まない子に対しては、飯能高校の事例のように親以外の情報提供者を図書館が担えるようにすればよいのではと考えます。

○委員

読書に限らず、人間が何かするときはモチベーションに依存します。「役に立つ」「興味のある人が薦めている」ということであれば読んでみようとなるのではないでしょうか。そう言ったニーズから図書館のあり方を模索することがまず大事です。昨今自分でもSNSを使っていて感じますが、自分の興味のあるジャンルで検索をかけると、いろいろな情報が付随して出てきて、ある種ミスリーディングされてしまいます。図書館は様々な情報を置いておくのが大事であって、若者に興味のあるものだけに注力するとネットでの情報集めと変わらなくなってしまうのではないでしょうか。例えば「YOASOBI」は人気のあるコンテンツですが、そこからベースになっている本や舞台が出てくる場所など。他には「鎌倉殿の十三人」から歴史や地理の分野に広げるなど、面白い観点で提案していくことができればよいかなと思います。ただ流行本だけを揃えることはやめるべきです。

○委員

自分の子どもは上の子がまだ中学生で、そこまで学校が薦める本を好むわけではありませんでしたが、本屋さん大賞の本や、両親がはまった本などを読むようになっています。本を読まない子は学校のプリントなどに載っているおすすめ本には興味を持たないですが、周囲の大人が10代のころに読んでいた本など、推薦図書とは別の視点から本の情報を与えると読むようになるのではないでしょうか。あくまで自分の子どもに起きた体験からではありますが、そう考えます。「本が高い」という話もありますが、『区民の本箱』のように題して、「こんな本を10代の頃に読んでいた」といった情報をつけて学校等に置けば、手に取る子も出てくるのではないかと思います。

○座長

貴重なご意見、ありがとうございました。いろいろなことが指摘されていましたが、高校生の多様性、大人であるということから押しつけでは動かないというところから始まり、高校生の時点では学習意欲のある子と無い子の差がかなりあるということがあります。97%が高校に進学しますが、高校のランクによっては文化も全く違うということも補足しておきます。高校生と一括りにして一

律の施策で進めていくのは難しいという点や、メディアミックスも含めた発信の重要性、図書館というスペースとしてのリノベーションなどの環境づくりの大切さの意見がありました。何らかの興味を糸口に読書に誘導しつつも、その分野だけに注力して世界を狭めてはいけない、流行を一方的に追うのは図書館がやらなくてもよいといった意見も出ていたかと思います。

OECD の調査結果では日本の子どもたちの読解力は落ちているということで、危機感を抱いている方もいます。日本の国語教育で出される課題は、書いてある情報を拾って穴埋めするといったものが多く、教科書も様々な本をつまみ食いしたアンソロジーのようで、多読乱読の傾向があると感じます。私の子どもはアメリカで教育を受けて育っており、別にアメリカ型の教育を推すわけではありませんが、アメリカの高校生の国語では、厚みのある本を丸ごと一冊、それを何冊も読ませます。実際には読まずにネットであらすじだけを拾ってくる子もいますが、それでも本が棚に何冊も並んでいるといった環境が作られるという点ではよいのかなと思います。そういった多角的な視野ですすめていくのもありなのではないかと考えます。

〇座長

続きまして、議題（２）の②「支援を必要とする子どもの読書活動の推進について」についてです。各委員の御意見をうかがう前に「支援を必要とする子どもの読書活動の推進について」について事務局より説明をお願いします。

（事務局説明）

〇座長

ありがとうございました。②「支援を必要とする子どもの読書活動の推進について」に移ります。この議題につきましては、第1点として、障害のある子どもの可能性を引き出すための読書環境の整備を推進していくために、今後どのような取り組みが必要か。
第2点目として、日本語指導を必要とする子どもの可能性を引き出すための読書環境を整備していくために、今後どのような取り組みが必要か。この2点につきまして、委員の皆様のご意見をお願いします。恐れ入りますが、各委員持ち時間3分程度でお願いします。

〇委員

障害のある子どもの読書支援ですが、第四次の時に文庫連に加入しているトントゥ文庫の話をしたことがあります。このトントゥ文庫のあるトントゥハウスは、障害のある方達の作業所でもあり、文庫で育った子どもが、そのままこの作業所に通よったこともあったようです。主宰者の話では、彼らには絵本が大事であるとのことでした。活字の多い本は読むのが難しいそうですが、絵本に関しては分かりやすいので、図書館にその辺を整理し充実させてほしいとのことでした。そうすることで彼らの図書館利用のハードルが下がるのではないでしょうか。先ほどの音訳についても充実させることで、練馬区と練馬の大人たちが、障害のある子どもたちへ支援する姿勢を持っていることを示すことができます。このようなことを図書館に考えてもらいたいと思います。

母語が日本語でない子どもについてですが、海外で短期間子育てをしたお母さんの話では、学

校ではことばにとても苦労したとのことでしたが、唯一算数の授業だけは理解出来たということでした。数字や計算などの技術が突破口となり、そこから言葉を増やしていったということでした。

〇委員
　障害のある子どもたちは本当に図書館が好きですが、大声を出してはいけないといったルールを守れません。トラブルになるのを恐れて、図書館利用ができないケースがあります。大声を出しても良い時間を設けるなどして、障害のある子も楽しく利用できる制度があればよいと思います。本の探検ラリーについて、光三中では中学生の障害児向けに小学生向けのラリーをやっています。とても喜ばれているので、光三中以外の中学校でも実施できたら良いです。日本語が母語でない子どもについて、小学校ではフォローがあるが、中学では見過ごされるケースが多いと聞いたことがあります。それでは学校で日本語ができないまま進んでいってしまう。図書館でブックトークなどを通して、支援することができればよいのではと思います。

〇校長
　自分の勤務している学校の隣に特別支援学校があり、子どもたちが交流しています。コロナ前は、本校の7年生（中1）が紙芝居を読み聞かせるといったこともやっていました。コロナになってからはオンラインでのリモート交流をしています。障害の特性に応じての配慮も必要であると考えます。

〇委員
　幼稚園の話になってしまいますが、遅れのある子それぞれでやり方は変わってきます。保護者によっては図書館には連れていきづらいと考えています。私自身が図書館で卒園生と会うと、元気よく声をかけてくるので、保護者の方が静かにさせようとする場面もありました。周囲の方の理解があると良いです。日本語が母語でない子どもについては、自分の幼稚園に母親がドイツ人・父親が日本人でドイツから帰国した子がいました。少し障害もありましたが、絵本が大好きで、絵本に描かれているものを通して周囲とのコミュニケーションをとったり、言葉を覚えたりしていました。最近も両親がフィリピンの子が入り、日本語は全くできない子でしたが、絵本を通して様々な言葉を覚えました。絵本に助けられることを常々感じています。

〇委員
　いろいろな障害がある事の理解がまず大事です。そしてそれぞれにあった書物があるのではと思います。しかし障害のある子は自分で本を探すのが難しいですし、親御さんも子育てに精いっぱいで本を探して読みきかせるという余裕はなかなかありません。健診を受ける保健所、児童発達支援センターといったところで、本の紹介パンフレットや保健師からの話があれば、本に触れるきっかけになるのではと思います。「こどもと本のひろば」は昼間に行くと人が少ないので、多少大声を出しても迷惑になりにくく、利用しています。絵本ももちろん好きですが、障害のある子は鉄道などの乗り物系を好む子が多く、そういった雑誌等も見つけては読んでいます。周囲の方が理解してくださると、障害のある子どもでも図書館が利用しやすくなってありがたいで

す。

〇委員
　私自身、特別支援学級でのよみきかせを通して、本当に一人一人の障害の個別性があることを実感しました。既存の施策を充実させるのはもちろんですが、個々のレファレンスサービスをする必要もあります。一般ユーザーはレファレンスサービスをあまり使わないので、障害の方こそレファレンスサービスの最先端ユーザーとして、どんどん図書館を活用してもらいたいです。日本語を母語としない方については、現状ではメジャーな言語へのサポートが目立ちます。必要なのはわかりやすい日本語の書物であるとすると、漫画を充実させることを提案します。海外では漫画やアニメをきっかけに日本語を学ぶ方が多く、たとえば「ONEPIECE」を通してであれば、漢字を覚えたりするのではないでしょうか。他方で、親御さんに向けた読書活動の提案も必要であると思います。最後に図書館で静かにしなくてはならない話ですが、最近の大学図書館はうるさく、逆に静かにしてはいけないという風潮すらあります。「騒がしい」が一つの図書館の新しいあり方としてあっても良いのではと思います。

〇委員
　障害のある子、日本語が母語でない子、いずれも保護者に連れられて図書館に来るのではと思います。親も来やすいようにセッティングを行うことが大事です。私は2年間ロサンゼルスで子育てをしていました。図書館というのは無料で、こちらの英語が下手でも安心して使える場所で、むしろ私自身が英語を練習する場でもありました。日本で暮らす外国人は日本語をある程度覚えなくてはという覚悟があるはずなので、逆に日本の図書館員は英語ができなくてもよいと思います。簡易な言葉で根気強く聞く姿勢がむしろ大切であり、図書館のルールで無理に縛り不公平にならないことが重要です。
　障害のある子、日本語が母語でない子のほかに思いつくのは、不登校の子どもについてです。放課後の子どもでにぎわう時間は図書館に来られませんが、日中どこへ行ってよいかわからないという子を受け入れる場として提供できるとよいのではないでしょうか。ロサンゼルスの図書館では2週間に一度、会議室に寄付で集めたレゴをたくさん並べ、遊べるようにしていました。レゴを用意するのは無理でも、例えば折り紙や日本のカルチャーを伝える紙芝居などを会議室等に置くなど良いかと思います。

〇委員
　声を出しても良い時間については、大賛成どころか、時間で区切らなくともよいかとすら思います。図書館を子ども連れの親御さんがホッとできる場所として提供できれば良いと考えます。必ずしも静かに利用する人ばかりではないということをポスターなどで告知するのはどうでしょうか。知り合いが区立小学校で日本語教師のボランティアをしており、使い終わった教科書を集めています。使い古しの書き込みだらけの物でもありがたがられるので驚きました。個人のことなのではっきりとは言えませんが、日本語を教える教材がまだまだ不足しているのではとも考え

ます。

〇座長
　貴重なご意見、ありがとうございました。いろいろなご意見がありましたが、多かったのがいかに多様な読書のあり方があるかという点です。障害に関してもいろいろなニーズや特性があって、そのすべてに対応できるキャパシティが図書館にはあるべきということ、図書館内でもっと音を出しても良いのではないかというご指摘も多く見られました。図書館のあり方を工夫することで、読書活動の推進につなげあれるのではという形でまとめられるかと思います。書架にて本の話などをワイワイできるというのはむしろ良いことかもしれません。静かに過ごされたい方には、ノイズキャンセラー付きのイヤホンを貸し出す、絶対静粛の部屋を設けるといったのもありかと思います。日本語が母語でない子の読書活動の支援については、中学生くらいの時期に日常会話はできるが本を読めないといった子が出てくる恐れがあるので、小学校高学年ごろから読書の支援活動が何らの役割を果たせるようになれば良いと考えます。

〇座長
　続きまして、議題（２）の③「読書活動推進の基盤づくり」についてです。各委員の御意見をうかがう前に「読書活動推進の基盤づくり」について事務局より説明をお願いします。

（事務局説明）

〇座長
　子どもの読書活動推進のために、子どもの意見聴取の機会の確保をしていくためには、今後どのような取り組みが必要か。委員の皆様のご意見をお願いします。恐れ入りますが、各委員持ち時間3分程度でお願いします。

〇委員
　文庫連のメンバーに聞いたところ、「子どもに聞くしかない」という結論に落ち着きました。具体的には、小学校の図書委員の子であれば、ある程度本に触れているはずなので、アンケートできるのではという意見がありました。読書会に集まる子どもも本が好きなはずなので、聞いてみるのもありかと思います。

〇委員
　子どものことを知ることが一番大事です。昔、図書館の読書会で子どもが自分の好きな本を紹介するといったイベントがありました。そこでは図書館員が子どもに直接好きな本を訊いたりもしていました。読書会は有効なのではないかと考えます。

〇校長

学校図書館は、読書センター的役割、学習センター的役割、情報センター的役割の3つの役割があり、公立図書館とは若干違った機能が求められています。それには区立図書館との連携が欠かせません。それは最終的にはネットワークでなく、人のつながりが大切です。管理員が配置されていますが、常勤ではなく勤務内容も限定されています。司書教諭もいますが、経験のない教師が司書に任命されているだけです。今の体制では管理員と司書教諭の連携も難しいので、先程述べた3つの役割を果たすためにも、管理員の常勤配置を要望します。

○委員
幼稚園では子のことは親に聞くことになりますが、図書館の手話付きおはなし会には参加した子などは、自らその時の話や借りてきた本のことなどを積極的に話してくれます。幼稚園ではそういった催し物での経験から子どもの意見を聞くことができます。そのほか、アンケート的なものがあるとよいかと思います。

○委員
子どもに意見を訊くのは良いと思うが、何を訊くかというのが難しいです。ただ好きな本のことを訊くと、流行の本の情報が集まるだけにもなりかねません。先程の図書委員に聞くというのは良いと思いますし、高校生たちがどういった意見を出してくるかには興味があります。

○委員
絶対にやってほしいのは、意見聴取にプロを使ってほしいということです。本好きの子に聞くだけでは不読率は変わらない、本を読まない子がどういう考えなのかを聞き出す必要があります。ターゲットごとにそれぞれの調査手法があり、プロでないと子どもから本音が引き出せません。まずは予算取りの話になると思いますが、ちゃんとファシリテーションのできるリサーチャーを使ってほしいと思います。

○委員
私は小学校の放課後ひろばのスタッフをしています。小学校の子全員に、QRコード付きのアンケート用紙でおいてほしい本やおもちゃについて聞いたところ、多くの回答がありました。子どもたちがいろいろなことを考えていることに感心しましたし、家庭で親と話したうえで回答しているので、本音がいろいろ聞けたと思います。

○座長
ありがとうございました。「子どものことを理解する」というのが大前提で、「誰に」「何を」尋ねるかが大事であるというご意見が多かったです。本格的に予算をとって、ターゲットごとに相応しい調査方法で情報収集する必要があるという指摘もございました。図書委員などに聞く意見もあれば、学校等に協力をお願いして練馬区中の子どもに聞くといった方法も考えられます。自分の専門の社会学的な話をすると、これは調査倫理の問題で保護者の同意が必要な領域になります。少なくとも調査に参加することが、子どもたちのネガティブな体験になってはいけません。逆に、子どもの読書への関心について情報収集することで、その調査に参加した子の読書

への姿勢を変えることもできるかもしれません。実験に参加し注目されたことで、パフォーマンスが上がったという事例もあります。

〇事務局
　第 11 期の第六回の会議は、令和 5 年 7 月前後に開催する予定です。「意見のまとめ・４年度実績報告」を議題とする予定です。日程調整を行ったうえで正式な日程が決まり次第、開催通知を送付させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

〇座長
　それでは、第11期第五回練馬区子ども読書活動推進会議を終了いたします。ありがとうございました。